

LIFE TIMES

三菱化学物流株式会社
<http://www.mclc.co.jp/>



平成25年5月1日(金)発行【隔月(年6回)発行】

発行部署 : ソリューション営業本部ソリューション営業部
住所 : 東京都港区芝大門一丁目1番30号
電話番号 : 03-5408-4620
発行責任者 : 白土 雄二郎
お問合せ窓口 : 芝 啓彦

第105号

【目次】

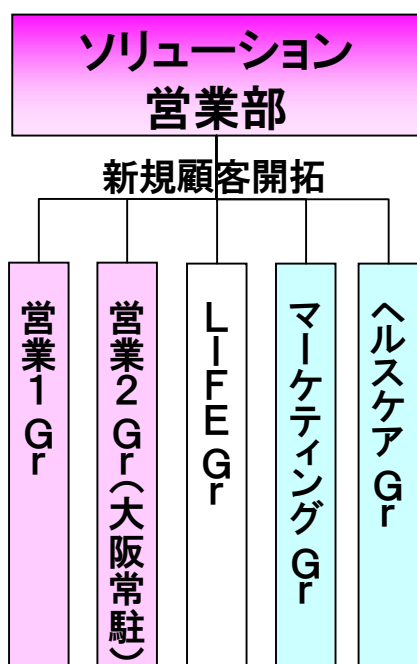
1. ソリューション営業部 組織変更のご案内
2. タイ現地法人、第Ⅲ期倉庫竣工式
3. 労働契約法の改正
4. 2012年度「物流効率化」提案実績
5. 菱化ロジテック社 ～四国支店紹介～
6. ロジスティクスSCM+流通フェア 参加レポート
7. バーコード技術に関する社内勉強会 報告



1. ソリューション営業部 組織変更のご案内

当社では、新中期経営計画“MCLC APTSYS15”を実現するために、本社の営業部門、事業部門および共通部門の組織体制、機能・役割を一部見直し、場所組織についても、事業環境の変化を踏まえた適切な規模の管理運営体制へ見直し、本社と場所の役割分担を明確にして、相互の連携強化を図るため、平成25年4月1日付で組織改正を実施しました。

これに伴い、私共ソリューション営業部に次の5グループを設置し、全社の新規営業機能を集約しました。(支社・エリア営業部の役割は、既存顧客のフォロー・職拡に特化します)



- 営業1グループ } : 新規顧客開拓
- 営業2グループ }
- LIFEグループ : 新規事業案件に関する解析、物流設計、提案業務
- マーケティンググループ : 市場・顧客ターゲット戦略の策定
- ヘルスケアグループ : 三菱ケミカルホールディングスグループをベースとした医薬、医療分野への新規取組み

新組織のもと、今まで以上にお客様が抱える物流の悩みを解決出来ます様、ソリューション営業部一丸となって取り組んでまいりますので、今後ともご支援の程宜しくお願い申し上げます。

ソリューション営業部 部長 白土 雄二郎

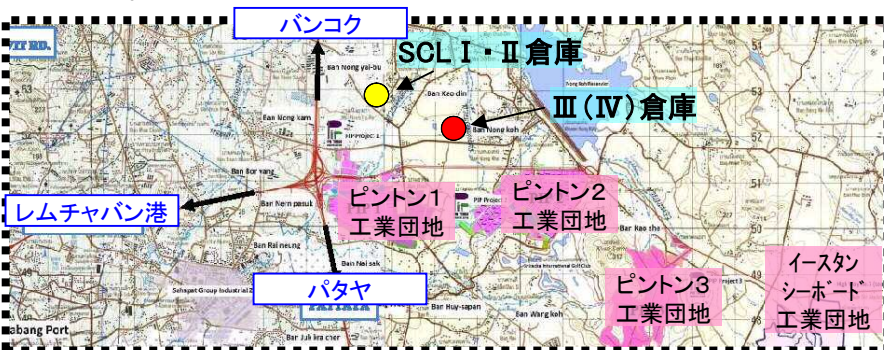
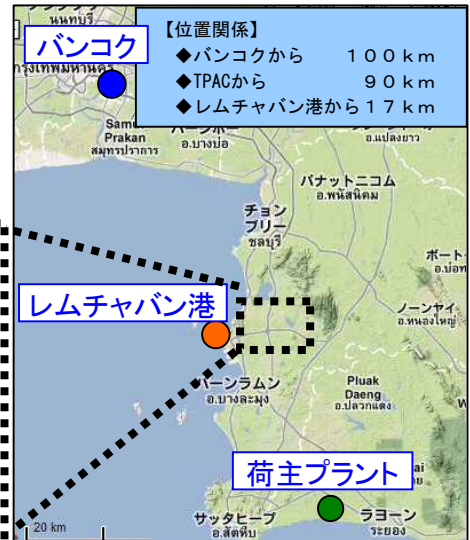


2. タイ現地法人、第Ⅲ期倉庫竣工式

当社タイの現地法人サイアム・ケミカル・ロジスティクス(SCL)社において建設を進めていました「第Ⅲ期倉庫」が予定通り完成し、3月20日 荷主幹部及び当社関係者を迎え、土地、建物を司るバラモン教の式典に則り、竣工式が執り行われました。新倉庫はSCL 独自に購入し、敷地は約32,000㎡で倉庫面積は6,800㎡です。立地は既存倉庫に隣接しており、バンコクから120～130km、レムチャバン港から15kmに位置しております。

現地の有力荷主のプラント増設に対応すべく建設されましたが、高度成長を続けるタイ経済、洪水後の企業移転に伴いタイの最大港であるレムチャバン港に近いこの地域への需要の高まりが期待されています。

同敷地内に第Ⅳ倉庫の建設も決まり、益々成長が期待されるSCLです。



3. 労働契約法の改正

2013年4月1日に「労働契約法の一部を改正する法律」が施行されました(一部は2012年8月10日施行)。

労働契約法とは、雇用にあたり労働者と使用者の間で締結される労働契約の基本的事項を定める法律で、改正の主な内容は以下の通りです。

①無期労働契約への転換 (2013年4月1日施行)

使用者は労働者の有期労働契約が通算で5年を超えて繰り返し更新された場合、労働者の申込みがあれば、無期労働契約に転換を図らなければならないというものです。(労働者が希望しなければ効力はないが申込みがあった際、会社は拒否できない。)

②不合理な労働条件の禁止 (2013年4月1日施行)

有期契約労働者と無期契約労働者との間で、期間の定めがある事による不合理な労働条件の相違を設ける事を禁止するルールです。

③「雇止め法理」の法定化 (2012年8月10日施行)

有期労働契約は、使用者が更新を拒否した時は、契約期間の満了により雇用が終了します。これを「雇止め」といいます。この雇止めについて、労働者保護の観点から、過去の最高裁判例により一定の場合にこれを無効とする判例上のルール(雇止め法理)が条文化されました。

この改正により、今以上に従業員が安心して働ける環境に改善され、景気も上向きになってくれたらと思います。

4. 2012年度「物流効率化」提案実績

当社ソリューション営業部では、2012年度は主だったものだけで9件の「物流効率化」提案を実施しました。

昨年度実施した「物流効率化」提案においては、既に当社が業務を受託しているお客様だけでなく、新規のお客様からも高い評価を頂いております。全体の傾向としては一昨年度に続き新規のお客様の検討案件が多く、依然と

して物流効率化への高い関心と、必要としているお客様の層の厚さを再認識いたしました。

当社の物流診断は優れた解析ツールとこれまでに得てきた豊富な経験を基に実施しておりますが、引き続き新たな解析技術やツールの開発・導入を推進し、より良い内容且つ分かりやすい提案でお客様のお役にたてるよう努めて参ります。

2012年度の主な「物流効率化」の提案事例

	提案先	物流規模		分野				効率化率 (ロス率)	検討人役	検討期間
		工場	倉庫	輸送	構内	仕組	在庫			
1	A化学メーカー	1	1	○	○	○		14%	2人	3か月
2	B医薬品メーカー	2	2	○	○	○	○	14%	3人	3か月
3	C化学メーカー	1	0	○				5%	1人	6か月
4	D化学メーカー	1	0		○			10%	3人	2か月
5	E樹脂加工メーカー	3	2	○			○	4%	4人	2か月
6	F化学メーカー	4	0	○				30%	1人	6か月
7	G化学メーカー	1	0		○	○		5%	3人	9か月
8	H樹脂加工メーカー	1	3	○	○	○	○	23%	3人	2か月
9	I樹脂加工メーカー	1	3	○				10%	2人	5か月

5. 菱化ロジテック社 ～四国支店紹介～

菱化ロジテック社四国支店は、三菱化学社坂出事業所内に拠点を構える生産物流部門と坂出市昭和町に拠点を構える輸送部門の2拠点体制、総勢134名で運営しております。

生産物流部門は、コークス、炭素材製造の付帯作業、設備保全作業及び三菱樹脂社炭素繊維工場での製品検査梱包作業等、人手に頼る作業で製造現場の一翼を担っております。又、ダンプ、トラクターショベル、散水車、バキューム車等18台の大型車両を使つての原料製品横持、出荷作業、所内環境維持作業に従事し、これら特殊車両修繕を主業務とした車両整備グループを有しております。

輸送部門は、三菱化学、三菱樹脂製品のみならず一般荷主(地元企業のネットワークにて)製品の高圧ガス・危険物・毒劇物・一般品液物ローリー及びトラック輸送を20台の車両で行っております。

生産物流部門も輸送部門も荷主、顧客生産活動に直結する業務であり、荷主ニーズに迅速且つ、適切に応え、荷主に頼られる物流事業者になるべく、日々努めております。「ご安全に！」



【生産物流部門:事務所・駐車場】



【輸送部門:乗務員詰所】

6. ロジスティクスSCM+流通フェア 参加レポート

2013年3月15日に大手町サンケイプラザで開催された『ロジスティクスSCM+流通フェア』に参加してきました。

昨今は通販業界に代表されるように消費者のニーズの多様化、短期間での変化に対応すべく「多品種少量」「小口出荷」「リードタイムの短縮」に基づいた供給体制がいろいろな分野で求められるようになってきています。

そのような中、今回「ピッキング作業における効率的な要員配置」のセミナーを受講してきました。上記に述べた供給体制確立において物流センターの役割、重要性は高まっており、迅速な対応力とトータルコストの削減を両立させていかなければなりません。それを実践するためには人で行う従来型の要員配置計画ではなくシステム(数理計画法プラス制約情報)で計画を行うことにより、

①より早く、より最適な実行計画の策定の実現

②最適要員配置によるコスト削減の実現

ができるといったことでした。

確かに継続する変化の中では1から人が立案するよりは効果的であると感じましたが、同時にノウハウの伝承、システムメンテナンス、データの解析と活用を継続して実施することが肝要であるとも感じました。

7. バーコード技術に関する社内勉強会 報告

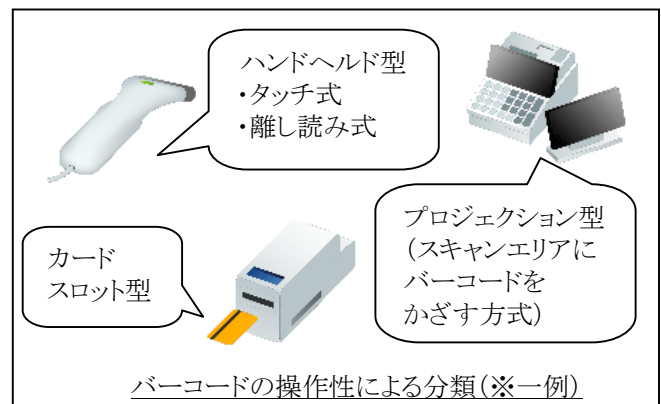
RFIDやICカード、生体認証など、自動認識技術は日々進化を続けています。本誌「LIFE TIMES」でも、今までにRFIDを始めとして物流現場で活用されている自動認識技術を紹介してきました。

今回、その自動認識技術の中でも広く普及している「バーコード」技術に関して、情報共有のため改めて社内勉強会を行いました。

一言で「バーコード」と言っても、その原理や操作性において非常に多くの種類があり、様々な作業現場に対応しています。(右図参照)

当社での最近の導入事例の一つに、容器管理にバーコードを用いた事例があり、勉強会ではその事例も参考にしながら、改めてバーコードの利点・弱点を理解しました。

今後も、“どのような物流現場で、どのような活用方法があるそうか”、自動認識技術の進化に注目していきます。



情報システム部 中光 純一

今年は3月に桜が開花した。新年度へ寄せる国民の期待が春の到来を急がせたのかもしれない。時を同じくし、新年度から社内の組織が改正され、私も新設された情報システム部に配属された。平成16年6月の組織改正で解消されるまでの大半を情報システム部に所属してきた私としては、今回の情報システム部復活には感無量の思いがある。政界と言えば、第二次安倍内閣が発足して100日余りが経った。その短い期間の中で積極的に政策を実行し、結果を出し始めている。安倍首相の「轍は踏まぬ」という強い信念によるものだろう。情報システム部には、IT戦略の策定、新技術の導入、事業関連システムの企画、社内基盤整備など重要な命題を任されている。政界を引き合いに出すのは甚だ恐れ多いが、我らIS部員に与えられた職場復活の意味をよく理解して、責任を果たすべく頑張っていきたい。